## ●苗立枯病

苗立枯病対策として、床土に焼土や人工培土を使用していない場合、タチガレエースM剤を使用してください。また、育苗期間中は、ハウス内温度が昼間30℃以上、夜間10℃以下にしない管理を行います。かん水などによってハウス内が蒸れないように適度に換気を行って下さい。適切な温度・水管理を行い、苗立枯病の発生を防ぎましょう。下記の表を参考に作業に合った農薬を使用しましょう。

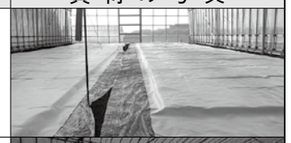
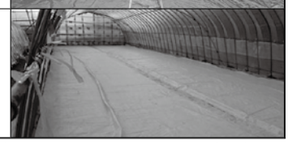
| 使用時期 | 農薬名 | 使用量、希釈倍率 | 散布量(箱当たり) | 使用方法 |
|---|---|---|---|---|
| 床土混和 | タチガレエースM粉剤 | 6～8ｇ／箱 | ― | 育苗培土に均一に混和 |
| 播種時 | タチガレエースM液剤 | 500倍 | 500ml | 土壌灌注 |
| | | 1000倍 | 1000ml | |
| 発芽後 | タチガレエースM液剤 | 500倍 | 500ml | |
| | | 1000倍 | | |

※後作に野菜を作付する場合は箱粒剤を使用しないでください。

## ●被覆シートは天候に合わせて使い分けましょう

無加温出芽（べた置き）は今年の天候に合わせて、使用する保温資材を選びましょう。近年は、春先の寒暖の差が目立つため被覆シートの特徴を把握し、使い分けを行いながら対応しましょう。また、出芽するまでの間は被覆シートをかけた苗箱の床土に温度計を差し入れ、床土温度を管理しましょう。

**被覆シートの特徴と注意点**

| 資材名 | 効果 | 特徴及び注意点 | 資材の写真 |
|---|---|---|---|
| ミラシート（白スポンジ系） | 保温、保湿 | 適度な厚みがあり、保温効果に優れることから、低温が予想される場合は効果が高い。好天が続く場合は床土温度が急激に上昇しやすいため苗ヤケの発生に注意が必要。 |  |
| シルバーポリトウ（ポリ+アルミ複合） | 保温、保湿、遮光 | 表面のアルミにより遮熱効果があり床土の高温防止に役立つ。低温時にも保温効果が期待できる。被覆する際には裏表を確認する。床土温度が急激に上昇しやすいため苗ヤケの発生に注意が必要。 | |
| 太陽シート（反射系） | 保温、通気、通水 | 高温時における急激な温度上昇を防ぎ、苗ヤケ等の高温障害を防止する。低温時は床土温度が上がりにくく出芽日数がかかりやすいので床土温度を上げる工夫が必要。 | |
| ラブシート（不織布） | 保温、保湿、遮熱 | 単独で使用すると乾燥しやすい。他シートと組み合わせて使用する場合は、ラブシートは下に敷き、その上に他シートを被覆する。 |  |

※出芽後の緑化期はラブシート、寒冷紗などを使用し、被覆シートを使用しての緑化は、控えてください。

## ●ケイ酸施肥

イネはケイ酸植物とも言われ、作物のなかでは最も多くのケイ酸を吸収します。ケイ酸を多く吸収したイネは、稲体が直立し受光体勢が良くなり、根が活性化します。そのため養水分吸収の改善、高低温、長雨などの気象変動に強くなります。登熟を向上させ高品質・多収に繋がるなどの効果があります。また、葉や茎が硬くなることにより倒伏しにくく、病害に強いイネに成長します。

**ケイ酸質資材**

| | おばこロマン大地 | | ケイ酸加里 |
|---|---|---|---|
| | ケイ酸17%、リン酸3% | | ケイ酸34%、カリ20% |
| | 散布量：10ａあたり60～80kg | | 散布量：40～60kg |
| | ケイ酸エースを配合しているので利用率が高い、機械散布に適した300kgフレコン規格もある。 | | く溶性加里と流亡しにくいケイ酸が配合されているため稲に吸収されやすいすべての成分が緩効性で肥効が長続きする。 |

No.1

# 農業技術情報

2020年３月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課

## ほ場が乾き次第、本田準備を行いましょう

昨秋収穫作業で苦労したほ場では、田面に高低差や排水不良がおきている場合があります。雨水のたまり具合で高低差を確認し、田面の均平を行います。全体的に水がたまるほ場ではサブソイラを入れ、透水性の向上を図り下層まで根張りを良くします。畦畔の畦塗りを丁寧に行うことにより、漏水を防ぎ、深水管理を行うことが可能になります。

## ●水不足管理

今年は、降雪が少なく春先の水不足が心配されます。用水を無駄にしないため畦塗りをしっかり行い、必要があればあぜマルチも活用しましょう。

漏水田対策として、トラクタの踏圧による床締め及び、畦畔部へのベントナイト施用が有効です。畦畔沿いに10mあたり、25kg程度を散布してから畦塗りを行います。

| 資材名 | 施用量 | 施用時期 | 施用方法 |
|---|---|---|---|
| ベントナイト | 700～1000kg（10ａあたり） | 荒起し時 | 全面散布後耕起 |
| | 25kg（10mあたり） | あぜ塗り前 | 畦畔際に散布 |

## ●上手な畦塗のポイント

畦塗りは少し土が湿っている状態で行うと、作業効率が上がります。目安としては雨が降った後、土を握ってみて塊になる状態で行います。

◎作業を行う上での注意事項

・作業速度を早くしない。

・耕起前に畦塗り作業を行う。

## ●プール育苗

プール育苗はハウスにビニールシートなどでプールを作り、苗が緑化期後１葉以上に生長したら水を入れて管理します。プール育苗を行うことで水管理や温度管理作業が軽減されるので、日中の管理が難しい方などにオススメです。

安心のネットワーク NOSAI から

園芸施設共済　春の嵐に備えて 水稲育苗ハウスご加入を！

なんといっても安心が一番！

例）3間×10間（30坪）の水稲育苗ハウス（新品）

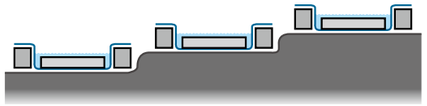
補償金額　221,000円

掛金はわずか　1,315円（2ヶ月の被覆）

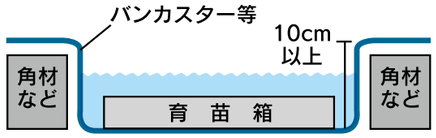
※詳しくはNOSAIまで　TEL 0187-63-1066

## ○プール育苗に取り組まれる方へ

・プール育苗を行うハウス内はできるだけ水平にし、足跡が付かないよう鎮圧します。
・育苗ハウスの傾斜が大きい場合は、プールを数段に区切るなどして置き床を水平にします。
・置き床の幅は育苗箱を並べる幅より５～10cm広く取り、土や角材などで８～10cm程度高さを出し、枠とします。
・プールには、水の漏れない遮光ビニール（厚さ0.1㎜以上のもの）を使います。
・プール内に育苗箱を並べる際は、発泡スチロールなどの上に乗りながら作業を行い、ビニールに傷をつけないよう注意します。



●育苗ハウス内全体を水平に出来ない場合はハウスを細かく区切りながら敷物に合わせた水平な置き場を作ります。（例：1.5間～2間×3間の穴の開いていないビニールシートを準備しその部分を水平にする）。

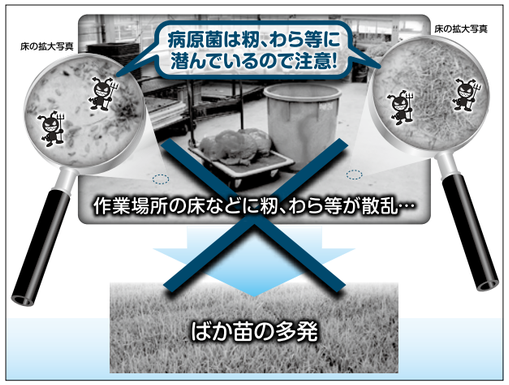



●ハウス内をできるだけ水平にならした後に、ビニールシート（バンカスター可）を敷き、育苗箱の周囲を土または角材等で押さえてプールを作ります。高さは10cm以上が理想。

## ●清潔な環境で作業を行いましょう

作業場内にある稲わらや籾殻には、病原菌が付着している場合があり、いもち病やばか苗病の伝染源になってしまいます。特に昨年、穂いもちの感染が見られたほ場の藁や籾殻には要注意です。種子予措作業に取り掛かる前に作業場内やその周辺を清掃します。

・配布された種子は直射日光の当たらない涼しい、清潔な場所で保管します。床に直接置くことは、絶対に避け、シートやパレットの上に置きます。
・品種や消毒方法の違う種子を一緒に置かないようにします。
・種子予措、育苗作業に使用する器具や容器が保菌している可能性があるため、育苗資材の消毒を行います。
・浸種に使う水は水道水か、井戸水を使用します。
・複数品種や消毒方法の違う種子を同じ容器で浸種・催芽を行うのは、やめましょう。
・周辺から病原菌が侵入するのを防ぐため、浸種・催芽時は容器に蓋をします。
・浸種・催芽で使用する器具や容器は品種や、消毒方法が変わるごとに十分に洗浄します。




## ●使用器具の消毒

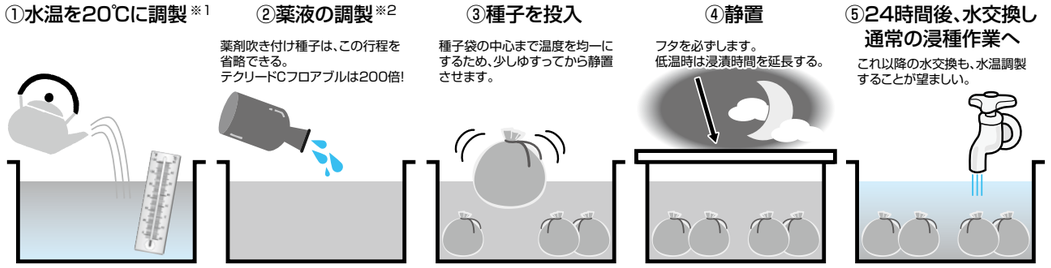
過去に、もみ枯れ細菌病やばか苗病を発生したことのある場合、病原菌が使用器具などに付着している場合があります。使用前に殺菌用資材：イチバンを使い器具の消毒を行います。

| 資材名 | 使用対象 | 希釈倍率 | 使用方法 | 特徴 |
|---|---|---|---|---|
| イチバン | 育苗箱<br>（木箱、プラスチック箱）<br>育苗ポット<br>支柱などの資材 | 500～1000倍 | 瞬時浸漬<br>もしくは、散布 | リゾープス属菌に優れた効果を発揮する。消毒後、水洗・乾燥の必要がなく、直ちに次の作業に移れます。 |

# 浸種と催芽は温度をこまめに確認しましょう

## ●薬剤を効かせる浸種方法

・薬剤吹き付け種子・塗沫済み種子は浸種により溶け出した薬剤を種籾が吸収することではじめて消毒効果が発揮されます。浸種開始時は温水等で水温を20℃に調整します。種籾を入れた後は10～15℃を目安に温度管理を行うと薬剤の効果が安定します。
・水の量は種子１kgに対し水3.5ℓ程度とし、浸種開始から２日間は水の交換は行わず、１回目の水交換後、２～３日おきに水の交換を行います。浸種期間は水温が10℃の場合で６～８日程度とし、水交換時には必ず籾の状態を確認し、籾袋の上下を入れ替えるなどして均一に吸水されるようにします。
・浸種時にしっかりと籾に吸水させることにより、芽出しが揃います。十分に吸水した籾は胚が白く透けて見えるようになり、これが、浸種の終了目安になります。
・無消毒種子を消毒する場合は効果の高いテクリードＣフロアブルを使用します。その場合も、初めの浸種水温を20℃程度にしてから種籾を浸けるようにしてください。




※1 種子を投入した際に水温が適温まで下がることを狙って、最初に少し高めの水温に調製します。
※2 ヘルシード剤、テクリード剤ともに浸種水温10℃以下では薬剤効果が不十分になったり生育抑制につながる場合があります。

## ●温湯消毒種子取扱い

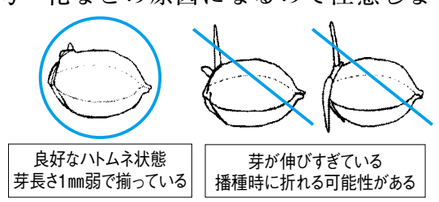
温湯消毒種子は無菌状態の種子なので、浸種後も種子を清潔に保つことが重要です。そのため、未殺菌種子の近くやムシロ、籾殻の近くでの保管は絶対にやめましょう。温湯消毒種子は、日陰で風通しの良い涼しい場所で保管します。

## ○催芽はていねいに行いましょう

催芽時には36～40℃のお湯で湯通しを行い、種子袋の内部まで均一な温度にし、その後30℃のお湯で催芽を行います。催芽中の水温が32℃を超えるともみ枯細菌病などの病気にかかる危険性が高まるため、こまめに水温を見て温度調節を行います。

温湯消毒種子を使用する場合は、催芽時にタフブロック剤を使用し、防除効果を高めましょう。

ハトムネ状態で発芽を終了します。催芽時に芽を伸ばしすぎると、播種作業中に欠けてしまったり播種量のばらつきや播きムラ、出芽揃いの不均一化などの原因になるので注意しましょう。




## ○もみ枯細菌病対策

もみ枯細菌病対策にエコフィットを使用しましょう。

エコフィットは播種時に使用します。希釈倍率100倍の薬液を１箱あたり500㎖灌注します。

注意
・テクリードＣ（銅含有剤）との催芽処理やダコニール・ダコレートなどのＴＰＮ剤との体系処理は行わないでください。
・軽度の初期生育遅延を起こす場合がありますが、その後回復するので、通常の管理を維持してください。

| 作物名 | 希釈倍率 | 使用液量 | 散布時期 | 使用回数 | 使用方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 水稲 | 100倍 | — | 催芽時 | 1回 | 24時間浸種 |
| 水稲 | | 1箱あたり500㎖ | 播種時 | | 灌注 |
| 育苗箱 | 10倍 | 1箱あたり50㎖ | | | 散布 |